PTAだより

第113号
平成26年12月17日
編集発行
岐阜県立各務原高等学校
PTA

お知らせ　今回より紙面がカラーになり、ページ数も8ページに増加しました。

▲ 11月7日　球技大会

学校行事に参加して

PTA会長　楢谷　清美

ＰＴＡ会員の皆様には日頃よりＰＴＡ活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。十一月四日に行われましたＰＴＡ研修会をもちまして本年度のＰＴＡ行事は終了を迎えました。全行事を無事に行うことが出来ましたのは、ひとえに会員の皆様のおかげであると心より感謝しております。

本年度のＰＴＡ行事を振り返ってみますと、ＰＴＡ校外研修の大学見学では愛知大学と名古屋学院大学へ行きました。郊外型から都心型へと都心回帰が進んでいることを目の当たりにし、また、わが校の卒業生の方にお話を伺うことが出来たことはとても有益なものとなりました。新生祭のカレーバザーでは生徒さんだけでなく、保護者や卒業生など大変多くの方にお召し上がりいただきました。新生祭のラストを飾る体育祭では応援合戦の審査をさせていただき、どの団も甲乙つけがたい素晴らしい演技で、応援団の方々の御苦労を思うと熱いものがこみ上げてきました。十月の学校をきれいにする日では、大勢の生徒さんや保護者の方、先生方にもご協力いただき、グランド周辺の除草などの清掃を行いました。ＰＴＡ行事最後となるＰＴＡ研修会ではＮＰＯ法人岐阜Ｇ－ｎｅｔ代表の秋元祥治様を講師にお迎えし、「進路を決めるにあたり大事な五つのこと」をテーマにご講演いただきました。高校生の保護者が最も関心のあると思われる内容だけに、参加していただきました方々は皆さんとても熱心に耳を傾けておられました。

そして、これらの行事全てには先生方や役員の方々に多大なるご尽力をいただきました。特に役員の皆様には高Ｐ連の諸大会、役員会などお忙しい中お時間を作っていただきました。また、朝のあいさつ運動にはＨＲ委員の皆様にもご協力いただき、誠にありがとうございました。

これより先は今年度の残りの円滑な運営と来年度に繋げるための協議をしてまいります。三年生の保護者の皆様には三年間のご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。一、二年生の保護者の皆様には来年以降もこれまでと変わらぬご協力をお願い申し上げます。近い将来に迎える子供たちの岐路に備え、その支えとなるための手伝いが出来るような活動を目指し邁進する所存でございます。

各務原らしく

校長　杉原　整

十一月八日、決勝を目指す本校サッカー部の試合会場「長良川メドウ」には、たくさんの生徒の皆さんや部活動の先輩の姿がありました。多くの保護者の皆様にも足を運んでいただきました。どの高校にも負けないさわやかなプレーと、選手と一体となった生徒の熱い声援がありました。試合終了まで、選手のプレーも応援の声も全力でした。試合終了と同時に、沈黙がやってきました。応援席の生徒は、静かに選手の動きを見守りました。生徒の応援席前に選手全員が挨拶に来ました。選手と一緒に戦っていた生徒達は、選手と一緒に「敗北」を分かち合いました。相手チームに大きなエールをおくり、本校のチームにはさらに大きな声で、最後のエールを送りました。泣き崩れる選手がいました。するとキャプテンでしょうか、「最後まで各務原らしく。」と選手みんなに声をかけました。その声と同時に、選手は皆、しっかりと前を見据えてベンチに戻りました。誇らしい姿でした。

▲ サッカー部　試合後の応援席への挨拶

十一月十六日、「長良川メドウ」には本校ラグビー部の姿がありました。同じく準決勝。たくさんの生徒や先輩、保護者の皆様の応援がありました。応援をリードするのはサッカー部の生徒でした。一週間前の思いを応援に込めました。「おぉー各務原」という声がメドウ全体に響き渡りました。白熱した試合でした。逆転に次ぐ逆転。五点リードで迎えた終盤、相手がトライを決めて同点。コンバージョンキックが決まり逆転。二十六対二十八となった瞬間、ノーサイドの笛が鳴りました。応援席の前に整列した選手の顔は、汗と涙で汚れていました。泣き崩れる選手に、「各務原らしく。」とキャプテンが声をかけました。選手全員が声を合わせて一礼しました。応援の生徒は、選手の後姿を見送りました。見送った後も、同じ姿勢で立ち尽くす生徒の姿がありました。

▲ ラグビー部　試合前の校歌斉唱

サッカー部、ラグビー部、剣道部、野球部は、本校では強化部と呼ばれています。思い返せば、剣道部のインターハイ予選の時にも、野球部の夏の大会の時にも、ひたむきにプレーする各務原高生の姿がありました。それぞれの部活動が「最後まで各務原らしく」さわやかに戦い抜きました。彼らを応援した生徒も、同じ思いを共有しました。「最後まで各務原らしく」この言葉は、今でも生徒たちの心の中に活きています。そんな各務原高生は私たちの誇りです。

私たち職員も「各務原らしく」という言葉を胸に刻み、本校の教育活動に邁進してまいります。今後ともご支援、ご助言を賜りますようどうかよろしくお願いします。

全国高P連福井大会

PTA副会長　古田　かつ代

福井県で「教育と考福～未来に引き継ぐ知恵と恵み～」をテーマとする第六十四回全国高等学校PTA連合会大会福井大会が八月二十一日～二十三日の日程で開催され、全国から一万人もの方々が参加しました。

開会式では、下村博文文部科学大臣から昨年度の教育指針についての報告があり、大学入試の抜本的改革やグローバル教育の推進、子どもの貧困に関する法整備など政府の教育政策についての話がありました。

その後の基調講演では、脳科学者の茂木健一郎先生から「いま求められる考福脳～脳科学者からの提案～」というテーマでお話をいただきました。この講演では、「幸福とは何か?」ということについて、人間は、欠点（個性）の隣には長所があるため、欠点（個性）を受け入れ、それを伸ばしていくこと、自分ができないと思っていることをすることによって幸福を感じるようになる。そうしたことを、アメリカの失読症の俳優や弁護士などを例にして、分かりやすく、ユーモアを交えて話していただきました。

午後の特別第二分科会では「自然。命、守るべき宝は今も」というテーマで、ラムサール条約に登録された三方五湖や中池見湿地の保全活動、第二次世界大戦中にユダヤ人に「命のビザ」を発給した杉原千畝についての発表がありました。

最終日の福井県立恐竜博物館特別館長東洋一氏の記念講演では、「福井の恐竜～アジア、そして世界へ」というテーマで、白亜紀にはアジアとヨーロッパがつながっており、福井県で発掘した恐竜を調べることにより世界の恐竜の動きが分かることなど中生代のロマンを感じるお話をいただきました。

こうした講演などの間には、福井県の高校生による全国レベル・世界レベルの演技や演奏があり、大会を盛り上げてくれました。

最後に、今回のすばらしい大会に参加させていただいたことに深く感謝します。この経験を今後のPTA活動に生かせればと思っています。

PTAカレーバザー

評議員　岩田　初枝

九月三日。新生祭初日に、PTA役員によるカレーバザーが開催されました。今年で七年目になりますが、ありがたいことに毎年七〇〇食近い売り上げがあります。

今年の生徒さんたちは、男子も女子も気持ちのよい食べっぷりで、大盛りコーナーが大盛況でした。最後のほうにはルーが足りなくなるという緊急事態が発生しましたが、その時には先生方や会長が秘策を練ってくださり、いつもお世話になっている㈱ながもり様の味とはまた違う、非常にスパイシーなカレーを、少々時間はかかりましたが提供することができました。チケットを購入して下さった皆様には本当にご迷惑をおかけしました。これを教訓として次回につなげていきたいと思っております。

来年度の新生祭には、保護者の皆様に是非とも足を運んで頂いて、生徒たちの食べっぷりを見ていただきたいと思います。来年度も子どもたちのため頑張ります！

「学校をキレイにする日」

PTA会計監査　栁田　順子

十月十一日、土曜日に「学校をキレイにする日」として、グラウンドや学校周辺の除草と清掃作業が行われました。当日は天候にも恵まれ、生徒有志、保護者有志、先生有志の多くの方々に参加していただき、作業を無事終了することができました。

私自身は二回目の参加になりますが、作業前からゴミなどは落ちておらず、グランドもきれいに整備されていて、いつも気持ちの良い印象を受けます。日頃から感謝の気持ちを忘れず、勉強やスポーツに取り組んでいる証だと思います。作業中は子供たちのキビキビした動きや集中して取り組む姿、周囲へ気配りのできる姿など、いろいろな姿を目にすることができました。子供たちの頑張りに応えられるように、行事には積極的に参加し続けたいと思います。来年も多くの方々の参加をお待ちしています。

今回参加していただいた有志の方々、本当にありがとうございました。

PTA研修会

PTA副会長　高橋　昌嗣

十一月四日に、NPO法人岐阜G-ネットの秋元祥治様をお迎えし「進路を決めるために　大事な五つのこと」と題し、御講演して頂きました。

まず、親の時代と今は違う！と、お聞きし、その後、親がロールモデルになる！という内容に移り

一　決まっている未来をまず知る
二　職業はいくつあるのか？
三　大学生の就職事情
四　実は、大企業志向、安定志向ではない
五　高校生活はどうすべきか？

とユーモアを交えながら話されました。

講演の締めくくりに、子供達には未知との遭遇、多様な出会いの経験をさせてあげてほしいとのことでした。

子供達が職業を選択する場合、出会った大人の影響があります。大学を卒業するまでに出会う大人とは、親・先生・アルバイト先がメインです。中でも、私達親が子供達と一番多くの時間を過ごします。親がロールモデルになる！とは、憧れの存在になることです。

今回の研修会は、今一度自身を見つめ直す学びの多い研修会でした。

▲ 文化祭総合大賞　3年3組　「美女と野獣」

文化祭

文化祭総合大賞

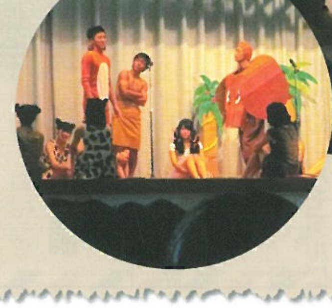
三年三組　高木　麻友子

私たち三年三組は文化祭総合大賞を獲得することができました。この発表の瞬間は驚きを隠せず、クラス全員で喜び合い、最高の思い出となりました。

私達はステージ部門で「美女と野獣」を披露しました。三組は日頃の生活から規律を守り、仲間を大切にするクラスで、「文化祭でてっぺんを獲ろう」という目標を五月に掲げ、一人ひとりが"今、自分にできることをやりきる"ことで責任を強くもち、取り組むことができました。各々が毎日、部活や体育祭の準備などで忙しく、全員で練習することが困難な時期がありましたが、新生祭を控えた一週間は時間をつくり、最高の準備ができました。本番当日は、開演が近づくにつれて不安と緊張に押しつぶされそうになりましたが、舞台裏で円陣を組んだ時、クラス一丸となり、高いモチベーションをもって臨めました。総合大賞というすばらしい賞をいただけたことはクラスの仲間、先生方などの力の結集だと感じています。賞以上に仲間とともに一つの目標に向かって取り組んだ素敵な時間、思い出をいつまでも忘れません。

▲ 展示部門　金賞　3年6組「プラネタリウム」

▲ 垂れ幕部門　金賞
3年8組
「Alice in Wonderland」



▲ ステージ部門　金賞
3年1組「ライオンキング」

体育祭

▲「騎馬戦」

▲「竹取物語」

青団

団長　三年三組　吉田　大樹

まずは、各部活動や委員会の方々をはじめ多くの方々に準備、協力していただきありがとうございました。様々な人の支えがあってこその体育祭、そして青団だったと思います。

今年の夏は天候不順で、満足のいく練習があまりできませんでした。それでも団員のみんなは真剣に取り組んでくれました。

本番の応援合戦では、団席のみんなが一つとなって団員の背中を押し、僕らの緊張と不安を消してくれました。応援優勝は青団二七六人全員で勝ちとったものだと実感しています。練習の時から大きな声を出してくれて、また、振り付けも完璧に覚えてくれ、青団全員が最高のメンバーだったと思います。

最後にこんな頼りのない団長を優勝に導いてくれてありがとうございました。あまりリーダーらしいことはできなかったけれど、みんながサポートしてくれたから大役を果たすことができました。

二年連続応援優勝と高校生活最後の年に手にした総合優勝は、僕の一生の思い出です。最後にもう一度、体育祭を支えて下さったすべての方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

赤団

団長　三年六組　丹下　泰宏

まずは、体育祭を運営する上で多くの方々が準備、協力してくださったことに心から感謝します。特に、強化部の皆さんが濡れたグラウンドを朝早くから整備してくれたおかげで、延期にはなったものの、無事に体育祭を行うことができました。

体育祭当日、どの競技にも鴉夏団全員が全力で取り組みました。三団ともに接戦でしたが、競技優勝することができました。このことは、団席がどの団より盛り上がり、全員が楽しむことができた証だと思います。

応援では、団席はどの練習の時よりも大きな声を出してくれました。団員は夏休み前から練習を始め、当日が近づくにつれて気持ちも高まり、練習量が多くなっただけではなく、練習の質も高くなりました。本番では、五分間がとても短く、そして何より楽しく感じられました。

今年の鴉夏団はとにかく楽しかったです。応援団員にも、団席の団員にも恵まれて、団長を引き受けて良かったと思います。私自身は、団長として頼りなかったかもしれませんが、皆のおかげで高校生活最後の体育祭を最高のものにすることができました。

鴉夏団でよかった！鴉夏団最高！

黄団

団長　三年五組　渡邉　弘貴

まず、体育祭を開催するにあたり、準備をして下さった生徒会、先生方、グラウンドを整備してくれた強化部の皆さんには感謝しています。また、練習から真剣に取り組んでくれた生徒、氣威団の団員にもとても感謝しています。そして、未熟な僕でしたが氣威団の団長をやらせていただきありがとうございました。僕がこうして最後までやってこられたのは、経験豊富な団員の支えや真剣に取り組んでくれた団員のおかげだと思っています。

氣威団は、応援も競技も総合も一つも優勝できなかったけれど、他の団に負けないくらいの仲の良さ、ノリの良さ、盛り上がりがありました。氣威団は、結果よりももっと大切なことを学べたと思います。応援団も精一杯頑張り、ハプニングがありながらも、それぞれがベストの踊りができ、団席の声も最高でした。でもやはり、そんな氣威団だったからこそ、優勝への思いは強く、それが叶わなかったことは悔しかったです。来年こそは絶対に優勝できるように頑張ってください。

氣威団大好き。ありがとう。

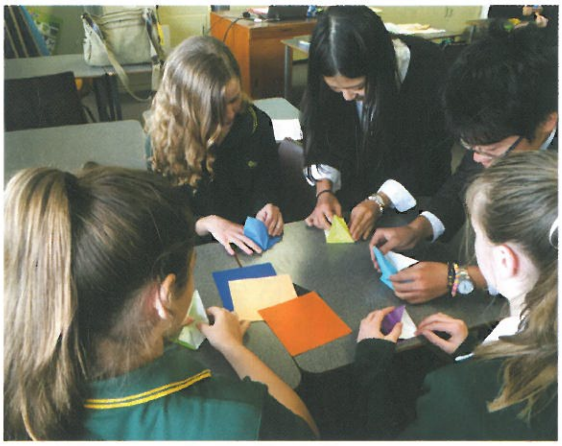
ケンモア高校への訪問研修を終えて

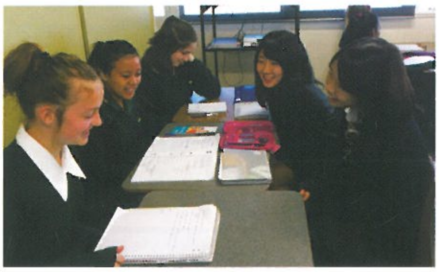
教諭　片桐　豊

　七月三十一日から八月九日までの十日間、一年生四名（男子一名、女子三名）、二年生十名（男子二名、女子八名）の十四名の生徒たちが、姉妹校であるオーストラリア、ブリスベンのケンモア高校での研修を行った。オーストラリアでは、真冬なのが信じられないほどの穏やかな天候に恵まれ、何よりも、ホームステイファミリーの方々や、お世話してくださったケンモア高校の先生方の温かい御配慮により、生徒たちは、毎日、充実した日々を過ごすことができた。

　七月三十一日、午後一時に高校に集合し、家族の方々や職員の皆さんに見送られて、予定通り、翌八月一日朝五時前にケアンズ空港に到着した。ケアンズでは、キュランダ渓谷や、レインフォレステーションを見学し、八月二日、ブリスベンに到着、バスでケンモア高校に向かった。午後一時前に駐車場に到着。バス内では疲れた表情を見せていた生徒も、笑顔で待つホームステイファミリーたちの姿を見て、表情が一変した。ファミリーを紹介されると、とても元気に、明るく、しっかり挨拶していた。

　二日の土曜日と三日の日曜日はファミリーと過ごし、八月四日、ケンモア高校に、全員が、バディ（ホストファミリーの中のケンモア高校生。高校では一緒に行動する。）と共に、明るい表情で集合した。フィッツジェラルド校長先生に歓迎の言葉をいただき、担当のバーカー先生による説明の後、シニア（最上級生）の日本語クラスの生徒たちに、校内を案内してもらい、二時間目からは、それぞれがバディたちと同じ授業を受けた。八月五日には日本語授業に参加し、ケン玉や折り紙、ひらがなの書き方を教えたりした。六日の午後には「ローンパイン　コアラ　サンクチュアリ」を見学した。コアラを抱っこして写真を撮ったりし、バディと一緒に楽しんだ。七日、八日はバディとともにさまざまな科目の授業に参加した。





　八月八日、ケンモア高校での研修最終日。放課後、フェアウェルパーティーを行っていただいた。ホームステイファミリーも駆けつけて、五十名ほどのパーティーになった。後半、生徒たちが英語とパワーポイント、実演などを駆使して、「各務原高校」「日本の食べ物」「季節の行事」「ファッション」「音楽」について、プレゼンテーションを行い、皆さんから大きな拍手をいただいた。研修終了証を校長先生から、プレゼントをバディから受け取り、感激のあまりバディと抱き合う生徒もいた。二十時に、各ファミリーに、ブリスベン中心部のホテルに送っていただいた。ファミリーと別れるのがつらく、抱き合い、涙を流しながら挨拶したり、駐車場を出て行くファミリーの車にいつまでも手を振る者もいた。本当に大切にしていただき、また、生徒たちもそれに応えていたのだと実感した。

　八月九日、朝四時集合で出発。日本に近づいている台風が不安だったが、関西国際空港に到着し、バスで各務原高校に向かった。オーストラリアでは一度も出逢わなかった雨だったが、高速道路では大雨だった。そして予定通り、二十四時少し前に各務原高校に到着した。

　生徒たちは皆、重くなったスーツケースと、語り尽くせない思い出、そして、更なる英語学習や、国際交流への意欲をいっぱいに帰宅した。

二年七組　加藤　舞

ホストファミリーと会った時、私はとても緊張していて、なかなか話せませんでした。でも次第に慣れて、楽しい時間を過ごせました。私のホストファミリーは優しく、面白くて、大好きです。

オーストラリアにはいい所がたくさんあります。私はマウントクーサに三回行きました。一回目はブリスベンの昼の景色を、二回目は夜景を見ました。三回目は歩いて登りました。とても美しかったです。

動物園ではコアラ、カンガルー、イルカなど、いろんな動物を見ることができました。山の近くでは、野生の動物にも会えました。

日本人の多くが苦手とする、ベジマイトというジャムを食べました。臭いは強く、塩辛く苦かったですが、案外おいしかったです。

最終日には、ホストファミリーと離れ難くなっていました。私の知る常識は、オーストラリアでは通じませんでした。世界は大きいのだと気づきました。オーストラリアに行って本当に良かったと思います。そして、ぜひもっと海外に行きたいと思いました。

部活動ニュース

弓道部　大躍進！　男子団体　東海大会　個人　全国・東海大会出場！

第五十三回　岐阜地区総合体育大会　男子団体　優勝
第三十三回　全国高等学校弓道選抜大会　岐阜県予選大会
男子団体　四位
東海高等学校弓道大会
十二月十三日、十四日　長良川弓道場
男子個人　優勝　村松　利規（二年三組）
東海高等学校弓道大会
十二月十三日、十四日　長良川弓道場
全国高等学校弓道選抜大会
一月十日～十二日　鹿児島アリーナ

囲碁部　躍進！　女子団体　東海大会出場！

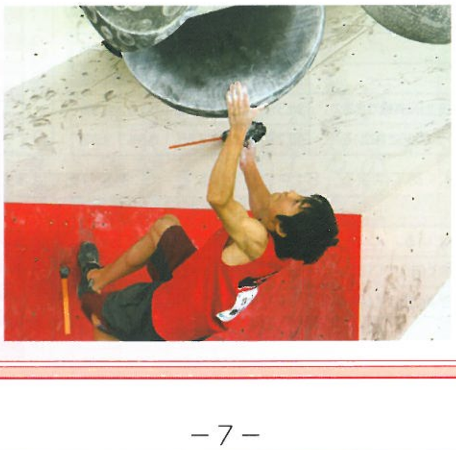
第三十四回　東海地区高等学校囲碁選手権大会
十一月二十三日（日）　伊勢シティホテル

国体に出場して

三年六組　亀山　凌平

山岳競技に三年間、出場させて頂きました。今年はボルダリング競技において三位入賞を果たしました。昨年の成績を越えることを目標に挑みましたが、越えることは叶わず、悔しい思いが残りました。しかし、目標を達成しようと努力した日々には後悔はありません。

最後になりましたが、やりたいことを手助けしてくれた家族と日頃気にかけて頂いた先生方や応援してくれた仲間には感謝しています。本当にありがとうございました。



開かれた学校を目指して

教頭　武藤　芳紀

◎学校評議員会

本会は、本校の教育活動について、地域社会や有識者から幅広く御提言と御助言をいただき、生徒、保護者等の期待に応えられる開かれた学校をつくることを目的としています。

平成二十六年度学校評議員の皆さま

飯田　健二　（学識経験者）
稲川　和宏　（関係機関等代表）
小林　育郎　（地域住民代表）
増田　義彦　（関係機関等代表）
山田　昌宏　（元ＰＴＡ会長）

第一回は、六月十七日（火）に開催しました。

第二回は、二月四日（水）に、学校関係者評価委員会を兼ねて、予定しています。

なお、学校評議員会の内容については、各務原高校ホームページにて公開しています。

◎生徒及び保護者を対象とするアンケートについて

七月の保護者懇談の折に、保護者、生徒全員からアンケートを取らせていただきました。今年度も昨年に引き続き、抽出調査ではなく全数調査を行いました。その結果を「あてはまる」と回答があった数値の大きい項目と、「あてはまらない」と回答があった数値の大きい項目を下表に示しました。（Ａ＋Ｂの割合が高い項目は本校の取組が十分で、Ｃ＋Ｄの割合が高い項目は不十分であると考えます。）

保護者アンケートで評価が低かった項目について述べます。

「連絡文書等は確実に届けられている」について、生徒への連絡指導を徹底するとともに、「学校の教育方針や指導の内容を分かりやすく伝えている」について、一斉配信メールサービスの一層の活用、本校ホームページの充実化を図っていきます。

十一月には公開授業の機会を設けましたが、来年度は、より多くの保護者の皆さまに来校していただけるよう、日程などについて工夫改善を図ります。

授業については、全教員が、十月に生徒対象の授業アンケートを実施しました。そこでの声も参考にして、一人一人の能力に応じた授業への改善を進めていきます。

また、服装・頭髪については「身だしなみ指導」を定期的に実施していますが、日常の指導についても、さらに取り組んでいきます。

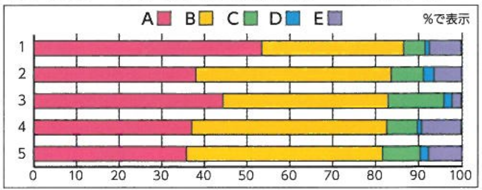
全ての項目など、詳細は、本校ホームページを御覧ください。

生徒の「本校に入学できてよかったと思っている。」保護者の「お子様はよろこんで学校に行っている。」について、引き続き高い評価が得られるよう、職員一丸となって努力して参ります。

アンケート回答者数　生徒809名（回収率98．9％）

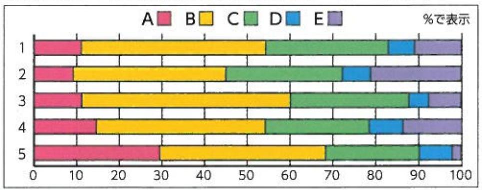
■生徒（Ａ＋Ｂの数値が大きい項目）
Ａ：よくあてはまる　Ｂ：ややあてはまる　Ｃ：あまりあてはまらない　Ｄ：まったくあてはまらない　Ｅ：わからない

番号	項目	A	B	C	D	E
1	本校では、部活動が活発に行われている。	53.4%	33.1%	5.0%	1.0%	7.5%
2	本校に入学できてよかったと思っている。	38.0%	45.6%	7.5%	2.5%	6.5%
3	本校からの連絡文書等は、保護者に届けている。	44.4%	38.5%	13.0%	1.9%	2.2%
4	本校では生徒の安全・衛生面に配慮し、交通事故や痴漢防止など安全指導をしている。	37.0%	45.6%	7.1%	1.0%	9.3%
5	本校では、社会のルールにふさわしい服装、頭髪等の指導を行っている。	35.8%	45.8%	8.8%	1.9%	7.9%



■生徒（Ｃ＋Ｄの数値が大きい項目）
Ａ：よくあてはまる　Ｂ：ややあてはまる　Ｃ：あまりあてはまらない　Ｄ：まったくあてはまらない　Ｅ：わからない

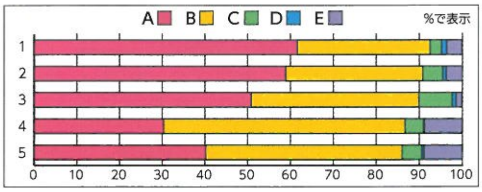
番号	項目	A	B	C	D	E
1	本校では、清掃が行き届いており校内がきれいである。	11.1%	43.2%	28.6%	6.1%	11.0%
2	本校の先生は、授業等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。	9.2%	35.8%	27.2%	6.6%	21.1%
3	授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。	11.2%	48.9%	27.6%	4.6%	7.6%
4	総合的な学習の時間「新生タイム」の内容は自分にとって有意義である。※月曜日7限の内容	14.6%	39.6%	24.3%	7.8%	13.8%
5	家庭で学校に関する話をしている。	29.5%	38.8%	21.8%	7.7%	2.1%

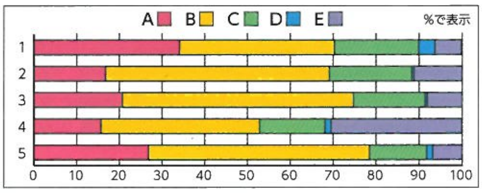


アンケート回答者数　保護者658名（回収率80．4％）

■保護者（Ａ＋Ｂの数値が大きい項目）
Ａ：よくあてはまる　Ｂ：ややあてはまる　Ｃ：あまりあてはまらない　Ｄ：まったくあてはまらない　Ｅ：わからない

番号	項目	A	B	C	D	E
1	一斉配信メールサービスは有効に活用されている。	61.6%	30.9%	2.7%	1.2%	3.6%
2	学校では、部活動が活発に行われている。	58.9%	31.9%	4.7%	0.8%	3.8%
3	お子様はよろこんで学校に行っている。	50.9%	39.0%	7.8%	0.9%	1.4%
4	学校の教育指導の重点「⑴学力の向上 ⑵人間性の向上 ⑶体力の向上」に共感できる。	30.3%	56.4%	4.3%	0.2%	8.9%
5	地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者（地域）に対策マニュアルが知らされている。	40.2%	45.8%	4.6%	0.5%	9.0%



■保護者（Ｃ＋Ｄの数値が大きい項目）
Ａ：よくあてはまる　Ｂ：ややあてはまる　Ｃ：あまりあてはまらない　Ｄ：まったくあてはまらない　Ｅ：わからない

番号	項目	A	B	C	D	E
1	学校からの連絡文書等は、保護者（地域）に確実に届けられている。	34.1%	36.2%	19.6%	3.8%	6.2%
2	学校の教育方針や指導の内容を保護者（地域）に分かりやすく伝えている。	16.8%	52.3%	19.2%	0.5%	11.3%
3	学校は、保護者（地域）が授業や学校行事等を参観する機会等をよく設けている。	20.7%	54.0%	16.7%	0.5%	8.2%
4	授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。	15.7%	37.1%	15.3%	1.4%	30.5%
5	学校は、高校生としてふさわしい服装、頭髪等の指導を行っている。	26.8%	51.7%	13.3%	1.4%	6.9%